

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイヤ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

京葉線ダイヤ改「悪影響」が8割

千葉市の利用者調査・1カ月で1万2千人回答

深刻な影響が明らかに

千葉市は4月25日の定例会見で、3月ダイヤでの京葉線の快速廃止に関する利用者へのアンケート調査に寄せられた回答状況を報告しました。（アンケートは4月30日まで。発表された内容は4月25日時点のもの）

千葉市の発表によれば回答者の8割が「悪い影響」、6割が「乗る電車を早めた」、3割が「利用を停止」と回答するなど、沿線住民への影響の深刻さが明らかになっています。

4月25日に発表されたアンケート調査の概要

- アンケート開始の3月23日から4月25日午前9時時点までに1万2458人が回答
- 回答者の約半数が千葉市民、3割は外房、内房線の沿線に住む利用者
- 「ダイヤ改正の影響はどう感じますか」という質問に約8割が「悪い影響がある」と回答
- 「乗る電車を早めた」等と回答したのは、回答者のうち約6割
- 「京葉線から別路線に変更するなど利用を停止」と回答した人は約3割いた
- 「今後のダイヤに望むこと」には、約7割が「通勤・退勤時間帯の快速の増便」と回答

※アンケート期間は4月30日まで

また、約1ヶ月で1万2千人が回答するほど関心が寄せられています。生活を根本から揺るがす改悪を一方的に強行するJRへの怒りの大きさが表れています。

安全切り捨てのワンマン拡大反対

会社がここまで極端なダイヤ改に踏み切ったのは、その先に全面的なワンマン化を見据えているからです。

快速・通勤快速がなくなった分だけ、輸送混乱時での追い越し駅の変更等の対応もなくなりません。「追い越し駅変更のやり取りも含めて運転士一人にやらせるのか」という問題も発生しないからです。

しかし、車掌の削減は安全の切り捨てです。すべての負担と責任を運転士に押し付けることも許せません。

京葉線快速廃止のやり方は、融合化やジョブローテーション、ワンマン拡大などで現場を無視して施策を強行してきたことと同じです。しかし、会社は「快速廃止」への激しい怒りの声に押され、前代未聞のダイヤ改見直しに追い込まれました。

会社の攻撃を打ち破る力は、職場からの声と団結した闘いにあります。地域の怒りとともにワンマン化反対、融合化撤回、ジョブローテーション廃止の声をあげよう。